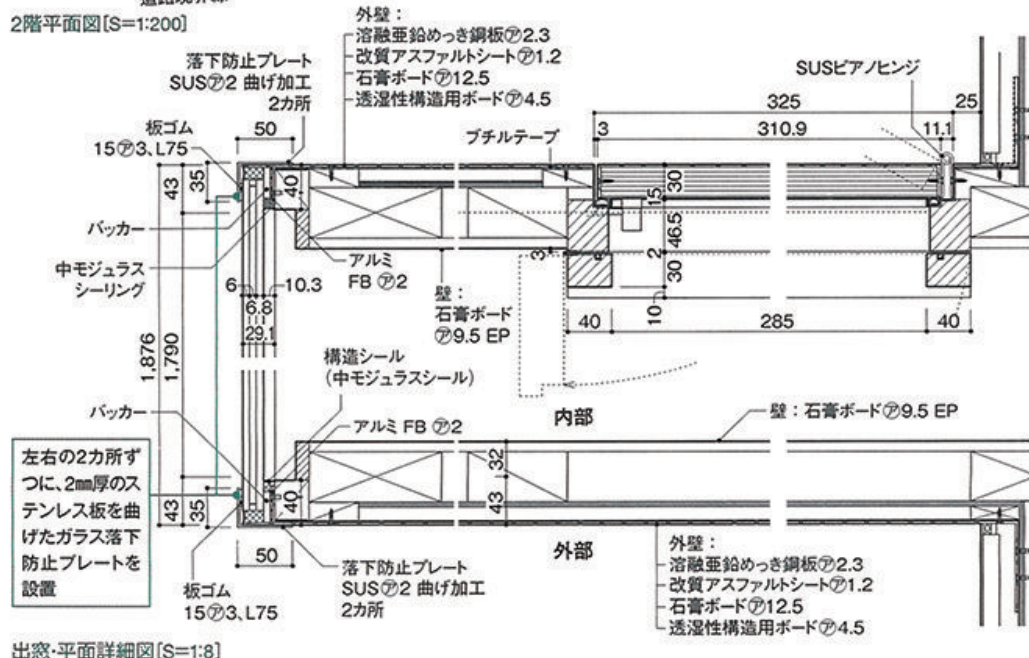
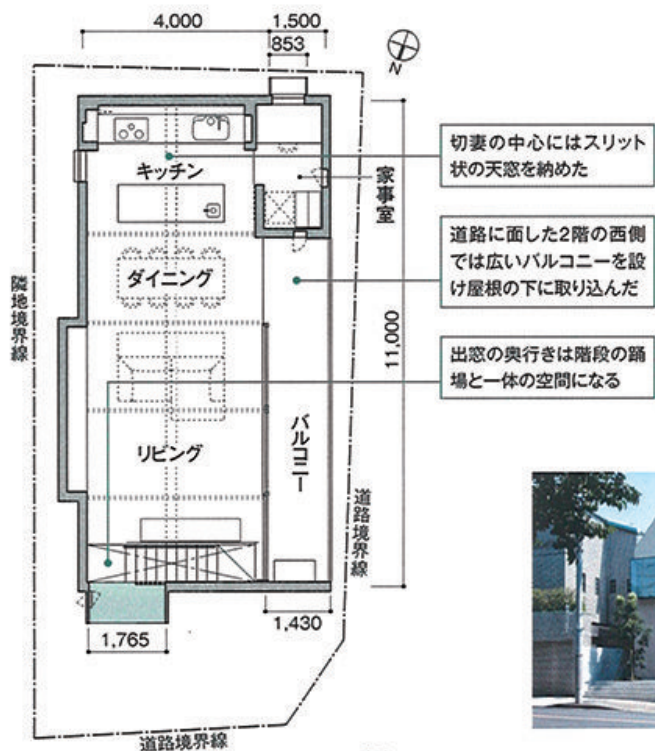


12 | 出窓を大きく出す

12-1 | 木下地+鋼板製の極薄枠を持ち出して出窓とする [設計: 矢板建築設計研究所]

シンプルな切妻型のファサードに個性的な表情を与えるには、窓や玄関扉といった開口部の見せ方がポイントとなる。本事例では、住宅地のなかの十字路の角という、人目につきやすい立地の家の“顔”として、また、内部と外部の空間を関係づける装置として出窓と突き出した玄関枠を設けた。特に、2階に設けた奥行き745mmの大きな出窓は、前面道路に建物内部の気配を感じさせ、街とのコミュニケーションを図る仕掛けでもある。素材の一体感をもつファサードの一要素として、溶融亜鉛めっきを施した鋼板を木下地に張って極薄の窓枠とし、中モジュラスシーリングでガラスを固定してFIXで納めた。側面には通風のガラリ戸と網戸を設けている。



上: 外装はややグレーがかった色味の樹脂系左官仕上げ | 中右: 2階のLDKの様子。出窓から望む風景として、対面の植栽だけをトリミングした | 中左: 玄関扉を開く枠も出窓枠と同じ溶融亜鉛めっき鋼板製 | 下: 通風のガラリは室内の壁と色を組み合わせ合わせて同色させた

建築知識

January 2014 No.710

1

とんでもなく
仕事に役立つ
ファサード図鑑